

啓発



- あいのり活動
- ・人が集まる定期的な活動に防災をちょい足し
例: 夏祭りに防災体験
: 百歳体操で災害の出前講座
・みさと演舞祭(三里全体で行っている)での情報周知

- 人材育成
- ・防災のために歴史を知る
 - ・危機感を持ち、防災の意識作りをする
 - ・関心のない人、仕事をしている人への啓発
 - ・避難訓練を何パターンかやってみる(例: 季節ごと)
 - ・防災動画を作成し、医療や介護・学校で見せよう
 - ・小・中学生と自由に意見交換をする場がほしい(授業ではなく)

- イベント
- ・イベントから防災への入口を広げる
 - ・民間だけでなく、行政主導のイベント(よさこい等)を継続的にやっていくことで、人の集まり、つながりを強くしていきたい
 - ・草の根運動(なぜイベントに人が来ないかを考え自らが参加しやすい状況を作る)

事前準備



- 備える
- ・1週間分の水・食料を構える
 - ・三里、十津は防災の放送(行政無線)が音が悪く聞こえないため、情報が行き届くようにしたい
 - ・被災時に土砂災害等で十津小まで避難できるか不安である
 - ・高台の団地に住んでいるため避難してきた人をどう受け入れるか考える必要がある
 - ・避難経路として使えない所もあるため、見直しが必要
 - ・日頃から避難路を確認し合い、安全な道に整えておく

情報発信



- ・Instagram、Xなどで情報発信のしくみを作っておくと災害時に活かせるほか、日々の楽しみにもなる
- ・防災イベント等をどう周知して参加してもらうか考える必要がある
- ・イベント等若い人にも参加してもらうため案内を紙とデジタル化の両方で案内をしている

共助力を高める



- 一歩踏み出す
- ・小さいことから始める
 - ・地域の人がそれぞれ地域のために動く
- 顔の見える関係づくり
- ・町内会・近所の人同士で声を掛け合う
 - ・地域のネットワークづくり(お祭り、防災訓練)
 - ・外部から来た人も仲間に入れる
 - ・スマホなどでのネットワークに参加できない人には、対面でのつながりを作るため、定期的なサロンの開催(補助金の上手な活用)
 - ・地域でのボランティア活動でも対価がないと参加してくれないため、じもっパイでポイント付与をしてはどうか

事前復興まちづくり計画ワークショップを通して感じたことなど

- 地域のことについて
- ・三里全体でつながりができていると感じた
 - ・地域に関わっていかないといけないと思った
 - ・若者も巻き込んで作っていかないといけない
 - ・十津地区を子供たちの地元(帰ってきたいまち、住み続けたいまち)にしたい
- 防災について
- ・被災後のイメージがわきづらかった
 - ・防災について学ぶ機会となった
 - ・過去の事例を見て、コミュニティが大事だと感じた
- ワークショップのことについて
- ・市役所は頑張っていると感じた
 - ・資料等、見える化することの難しさを感じた
 - ・ワークショップを通して今できることが見えてきた
 - ・今やることで復興しやすい点ができると思う

その他たくさんのご意見をいただきました

●お知らせ

「地区別事前復興まちづくり計画(三里地区)」の計画書が作成できましたらホームページ上に掲載させていただきます。
過去のワークショップニュースもホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

●お問い合わせ先

高知市 防災対策部 防災政策課
事前復興まちづくり担当
TEL:088-823-9055
FAX:088-823-9085
Mail:kc-080200@city.kochi.lg.jp

高知市
事前復興
まちづくり
ニュース
VOL.3
R8.4.21

三里地区
事前復興まちづくり計画
第3回ワークショップ
(十津地区)を
開催しました!
地域の方
14名参加

ワークショップでいただいたご意見のまとめ
意見交換3は2、3ページ、ワーク5は4ページです

3月9日(月)、高知市立十津小学校で、三里地区事前復興まちづくり計画第3回ワークショップ(十津地区)を開催しました。意見交換3では今までの地域の方の意見を反映した「最終復興ビジョン」、「最終復興パターン」についての意見交換を行い、ワーク5では「災害が起きる前からできること」について、みんなで話し合いました。



- 済 第1回 R7.9.8開催
- ワーク1 三里の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていること
 - ワーク2 復興パターン2案について
 - ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像する



- 済 第2回 R7.12.16開催
- 意見交換1 復興ビジョンについて
 - 意見交換2 修正復興パターンについて
 - ワーク4 速やかに復興するために必要なこと



- 第3回 R8.3.9開催
- 意見交換3 最終復興ビジョン、最終復興パターンについて
 - ワーク5 災害が起きる前からできること



決定！ 三里地区の目指すべき姿=ビジョン

さいがい
『海と大地と助け合い 災害に強く ずっと住みたいまち』

地元の産業を支え、海水浴場として親しまれる「海」と、彩り豊かな花や野菜を育む「大地」。この2つの恵みを大切にしながら、日頃の地域の「つながり」を力に変え、いざという時に「助け合う」ことで、災害に負けない強いまちをつくります。

三里の良さを次の世代へつなぎ、誰もが誇りを持って「ずっと住みたい」と思える、温かい地域を目指します。

【決定の経緯】

- ワークショップ等で最も多くの支持をいただいた「案3」をベースに、次点の「案2」でご意見の多かった「災害への強さ」も取り入れ、皆様の想いを一つにしました。
- 三里の誇りである「海」や「大地」、そして大切な「助け合い」。子供から大人まで、誰もが分かりやすく覚えられこの言葉をつなぎ、私たちの目指すべき姿にしました。

ご検討いただいた案(前回お示したもの)

- 案1「資源」を主軸 『海・なりわい・歴史の魅力に溢れた 住みよい安心と絆のまち』
- 案2「防災」を主軸 『人・海・歴史が繋がる 災害に強く、住み続けたいまち三里』
- 案3「コミュニティ」を主軸 『自然と産業が調和し、人と地域が支え合う、安心を育むまち 三里』

皆さまから出た意見

いいね！

- ・この復興ビジョンで良いと思う
- ・少し長いと思うが、出た意見がまとまったものとなっている
- ・「助け合い」というフレーズは必要である

次世代に向けたフレーズにしたい

- ・子どもへの呼びかけのようなワードを含んだらいいのではないか
- 例:「思い出のつまった住みたいまち」

簡潔に

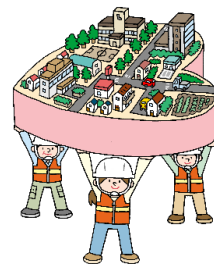
- ・復興ビジョンの後半部分を「災害に強い住みたいまち」にしてはどうか
- ・「災害に強く」は被災後の復興ビジョンなので、なくていいのではないか

「海」の意味合いについて

- ・海水浴場のことだけでなく、ビーチパレーや釣りも楽しめる、多様な活用方法の意味も含まれる

復興の活力となるフレーズにしたい

- ・これから復興するために、力が湧く、心の支えになるような言葉、内容がいいのではないか



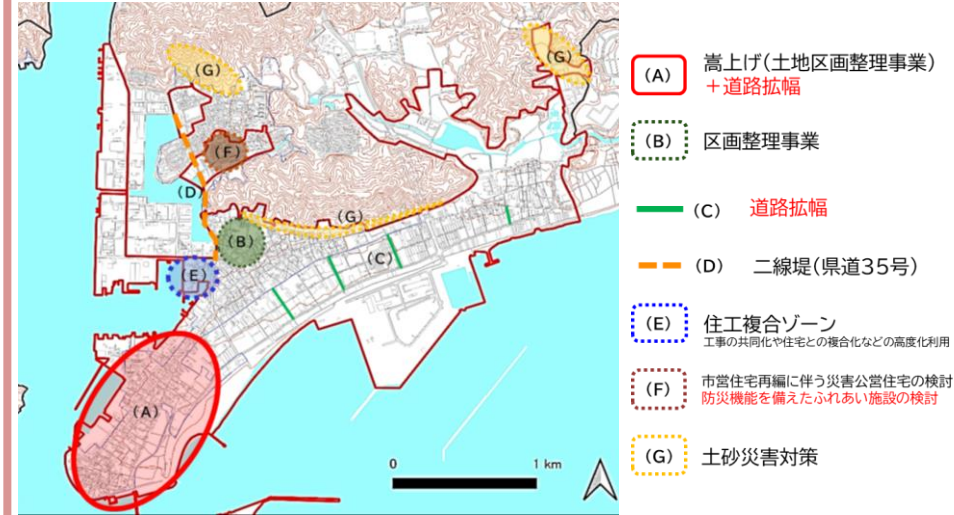
皆様と歩む、これからの未来

事前復興まちづくり計画の核となるビジョンにつきまして、多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

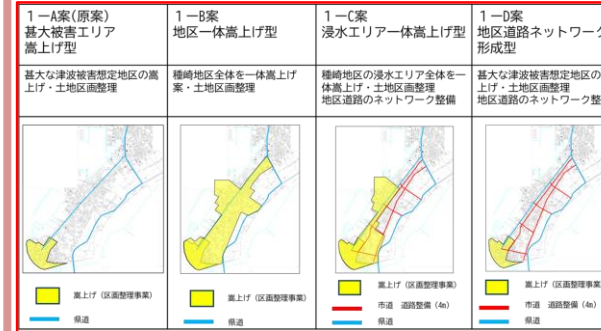
皆さまの地域を想う熱い想いを踏まえ、検討を重ねました結果、本案『海と大地と助け合い 災害に強く ずっと住みたいまち』を最終的なビジョンといたしました。

このビジョンは、災害時に地域の復興を導く、私たちの指針として大切に受け継いでまいります。

(最終案)高上げ案



<(A)の復興パターン>



いいね！

- ・新港があるため、災害後に海からの支援も可能となり心強い
- ・災害時に避難所運営など中心となって活動してくれた人が地域を支える人として被災後も残ってくれるのではないか
- ・地域住民の意向も含めて、予算(身の丈)にあった復興をすることが大事

心配なこと

- ・種崎地区は被災後に出ていく人が多くなるのではないかと
- ・十津地区の公営住宅の検討エリアについては浸水するエリアとなっているため高床式等にする必要がある
- ・十津地区には土砂災害対策が必要な箇所が他にもあるのではないかと

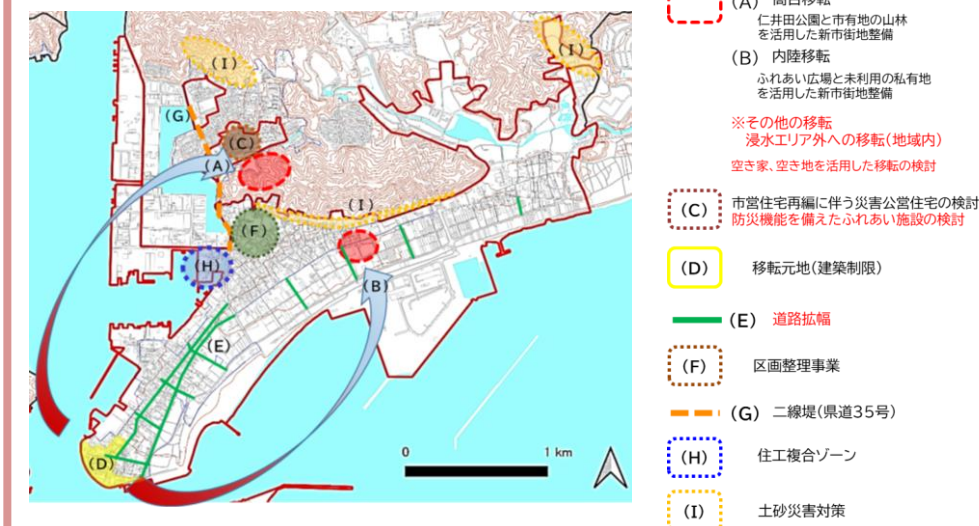
アイデア

- ・まち歩き等を行うことで地域内の新たな災害リスクを発見できるため、より現実的な被害想定をもとに復興を検討できるようになるのではないかと(地域内での活動)
- ・十津地区にふれあいの場ができれば、それに合わせて消防団も設立(十津地区に)してほしい

道路について

- ・種崎・仁井田地区は道が狭いので道路拡幅は良いと思う
- ・拡幅する道路に面した地権者にのみ土地を提供してもらうため、賛否が分かれるのではないかと
- ・晴海団地の狭い道を復興時に整備してほしい

(最終案)移転対応案



その他の意見

- ・被災後はごみ・がれきの撤去で時間がかかってしまうため、十津地区の西側の湾などに埋めることをしないと場所も時間も間に合わないのではないかと
- ・三重防護が壊れない前提でのシミュレーションのたたき台を基にして、実際の復興計画時の選択肢を考えておくことがこの計画の中で最も大事である

